

NO. 20

発行日 : 2014年1月1日

原発事故被害者 相双の会

連絡先

國分富夫(会長)

住所

〒965-0013 会津若松市堤町6-12

電話 090(2364)3613

メール

kokubunpi-su@hotmail.co.jp

事務局

鈴木宏孝 090-2909-6133(浪江)

坂上義博 090-1067-7265(大熊)

板倉好幸 090-9534-5657(南相馬)

2014年こそ、生活再建・脱原発の年に

事故から早くも3年がたとうとしています。辛い3年間でしたが、各地に避難した仲間も力を合わせてよく頑張ってきました。ご支援いただいた全国の皆様に御礼を申し上げます。

さて、民主党政権で「2030年代原発ゼロ」目標がかかげられて、現在も稼働している原発は一つもありません。それで企業に何か影響があったでしょうか？ そんな声は一つも聞こえてきませんでした。節電は、原発とは関係なく、資源を大切にするために当然です。

ところが国の新たなエネルギー基本計画が政府内で検討され、素案で原発が「重要なベース電源」と位置づけられました。福島県民はじめ国民の命と健康など考えていない政策です。

電力会社は「再稼働できなければ電気料金を上げる」と迫り政府も再稼働に向っていますが、日本は原発のおかげで世界一高い電気料金と言われていますし、事故処理には数兆円もかかる現実を無視しています。

安倍政権の、数に物を言わせた強権政治があらゆるところで出始めています。国民の80%の反対もふみにじった秘密保護法案の強行採決、秘密保護法に守られて利権の「原子力村」も復活します。今までも原発の危険性については、隠しに隠し、嘘に嘘を重ねられて、国と東電に馬鹿にされてきました。未曾有の原発大事故の時、スピーディーのデーターを長いこと「秘密」にしていたために、大勢の若者や子供、妊婦さんが被曝させられました。私たちはこういうことを二度と繰り返させてはなりません。

秘密保護法で、原子力村の利益が「知る権利」と命より優先され、それをくいとめようとすれば



Kazuko.

捜査を受け逮捕される。こんな悪法は、原発被害者の立場からも廃案にしてほしいものです。

また昨年末には、安倍政権は「事故処理」のあらたな抜本策を打ち出しました。しかし私たちは政府のやることはまず眉にツバしてかかります。信用できません。だいたい事故はまだ継続中なのに、「処理」として対策するのがまちがっています。原発再稼働方針にたった膨大な税金をつぎ込む東電救済、避難者・被害者のあらたな分断、個人線量系方式による国の被曝防止責任放棄など、たいへんな問題があります。

わたしたちはいっそう結束を固めて、脱原発と被害者への完全な補償を求め今年も前進しましょう。

原発事故被害者相双の会会長 国分富夫

「DV国家」との勝負は3年目から正念場

講談師・原発避難者訴訟「相双の会」を支える会呼びかけ人 神田香織



人災の原発事件はほとんどの解決をみぬままに今年の3月で3年目を迎えることとなります。

年末の政府与党の信じられないような暴挙の数々、国家安全保障会議を設置し12月6日には大多数の国民の反対を押し切って「特定秘密保護法案」を参院でも強行採決。翌日の新聞にはそれを伝える記事とともに「政府は原発ゼロを撤回、再稼働推進」の記事。12月20日には東電の除染費3兆6千億円を国が全額肩代わり、つまり国民負担で東電を支援すると決定。24日、クリスマスイブの新聞紙上にはPKOの国連部隊に銃弾1万発を無償で譲与する、武器輸出3原則を破る報道まで！

あな恐ろしや。原発事件では基本的人権や幸福追求権を、こんどは平和憲法を蔑ろにする、まさに憲法違反の独裁国、そんな国を今度は「愛せよ」と来た。国を暴力男に置き換えると…え～「DV国家」の誕生なり～。

さて、DVに立ち向かうには仲間を増やし声を上げるのが一番。

私たち芸人は3年間の下積みの前座修行を終えた時からが、プロとしてスタートを許される。3年目からが正念場です。理不尽な目にあっている県民は、泣き寝入りせずにどんどん裁判に訴えてほしい。

その為にも相双の会の役割は今後ますます重要になるのです。今年も「呆れ果てても諦めない」でいきましょう」

茨城県つくば市

「福島被害者からの訴えを聞く会」

に避難者も大勢参加



福島の実況を訴える國分富夫



会場には多くの人が集まった

「脱原発ネットワーク茨城」（長田満江、小張佐恵子、江口肇の共同代表）は12月14日に、つくば市で國分富夫さんを迎えて「福島被害者からの訴えを聞く会」を開催しました。

國分さんは、「国や県からは何の情報も伝えてもらえず、SPEEDYの情報を自分たち避難者に知らせなかった責任は誰がどうとのか。そして避難の為にどんどんと分散世帯になっていること、子どもの不登校が多いこと。仮設住宅の人々は先の見えない生活の不安で苦しみ、事故が起きてしまったからしょうがないでは済まされないと声を大にして言いたい」と述べました。そして「現在、連日のようにトラブルの報道がある。汚染水の貯蔵タンクの寿命は5年、しかし2年そこそこで漏れが発覚、対策は後手後手で、汚染水はますます高濃度化してきている。台風が来ると汚染水を流す」現状を訴えて、「われわれは被災者でなく被害者である。原子力発電所が爆発すると国が終わる。原発をなくすことが国を守る」と

結びました。

この間つくばでは、南相馬市からの200名以上の方をはじめ、避難者の皆さんに、行政窓口などを通じて有志の市議員で情報をお伝えしたり相談にのったりしてきました。この集会の案内も南相馬市の仮出張所をつうじ避難者に案内をしてもらいました。集会当日には20人以上の避難の方々が参加され、講演会終了後、実行委員会の用意した手作りカレーで懇親会をおこない、そこでつくば市や近隣に避難されている方を含め意見交換会ができました。現在取り組まれている福島原発避難者訴訟での生活再建闘争裁判の説明と次回に開催される口頭弁論への支援など意見交換が行われました。

この講演会をきっかけにして、避難者の皆さんとの交流や支援をいっそうひろげていきたいと思ひます。

茨城県つくば市議員 金子かずお

東京南部被害者交流バスツアー感想文（2）

昨年11月16～17に相双視察に来られた東京南部の皆さんの感想の続きです。

* 家族が住むのがバラバラ、気持も分かれる、そして精神的な重み。色々なところで知らされてはいたものの、本人の方たちにお聞きしたことは、ヨリ大変で重いことを知ることができました。そして頑張っって訴訟を進めるすごさ。大変な方たちにどうしてあげたらよいかと思って参加しましたが、お聞きすることが私の中では良い経験（という言い方も変ですが）になりました。暗い日本に私も暗くなっていますが、どう生きていけばよいか、もっともっと大変な方たちを少しは支援するすべを考え、行動していきたいと思います。 宗像由美子

* 今回見学させて頂き、一見普通に見える町並みが実は人が住んでいないと分かり、むなしさがこみ上げてきました。沢山の山の人たちと素敵な自然をすべて台無しにしてしまう、原発のおそろしさを実感しました。交流会でお話いただいたことは、とても心に重く受け止めています。時間の経過と共に、精神的に疲れ手きておられるとお聞きしました。私に（一主婦）何ができるか、問いながら、反原発・脱原発は訴えていきたいと思っています。 f.k(女性)

* 国分さんの奥様の話に、心がつぶれました。「着のみ着のまま、雪の中を一カ月、孫二人と息子達と四人で逃げた。母の居たホームの避難先がわからず、避難先でたった一人で死亡した。葬式もできなかった」、「これからも頑張らなきゃいけないのかなー、もう頑張れないかも…、でも頑張らなきゃいけないのかな…」、「もう外へは出た

くない、…でも一日中家の中に居ても先が見えない…」…。私たちは何をしたらいいのか、どのように手をさしのべるがよいか。本当に国会議員の一人ひとりに「福島仮設住宅体験」を今からでもさせたいと思います。 i.k(女性)

* 「相双の叫び」は夢中になって読みました。その中の現地の方々の文章は真に迫って、何よりも具体的に実態がよく分かりました。「逃げろ」とだけ言われたが、どこにどう逃げてよいか、そんなときのマニュアルなど皆無だったこと、そのような右往左往を15万人もの人が強要されたこと、その痛みと怒りを東電、国に束になってぶつけねばならない。「自分達の土地、家屋を、もうただであげるから、かわりにそこに住んでみる」とおっしゃった方の怒りを我々もぶつけるお手伝いをせねばならぬと思っています。 i.A(男性)

* 福島で生活している人の生の声を聞き、やはり原発はなくさなければいけない。人間がコントロールできないものは、人間は持つべきではないし、生活を壊された人への保障や、元の生活をとり戻すことができないのであれば、なおさらだと思ふ。被災者の声も直接会い、聞いたことがほんとうに良かったと思ふ。私自身の運動、活動にも、大いに生かされるバスツアーでした。脱原発・生活再建へ向け、私も出来ることをしたい。

葛飾区議会議員 みずま雪絵

「相双の会」 会報に ご意見を

是非ご投稿をいただき「声」として会報に載せたいと考えています。匿名でもけっこうです。

電話090(2364)3613 メール(国分) kokubunpi-su@hotmail.co.jp